

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992700054		
法人名	医療法人 弘真会		
事業所名	グループホーム 尊徳		
所在地	栃木県真岡市久下田956-4		
自己評価作成日	平成22年12月23日	評価結果市町村受理日	平成23年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営が医療法人であり、病院が近隣にある為、医療機関との連携も取りやすく、訪問看護の看護師とは24時間連絡が取れ、日々の健康管理には万全を期しています。・入居者個々の得意とするものを活かして役割作りをすることで、生活意欲の向上に繋げられるよう支援しています。・外出の機会を多く取り入れ、同グループ内の施設や市の行事などにも積極的に参加しています。・家庭的な雰囲気を大切に「ゆったり安心して」生活できるホームを目指しています。常に清潔を心がけ、必ず朝夕2回の掃除を行っています。職員は女性のみですが、全員が明るく生き生きと皆様の支援に携わっており、いつも笑い声の絶えない施設です。4年目の若い施設ですが、今後も常に入居者様を第一に考え、入居者様やご家族様に安心して頂けるよう、ご意見もどんどん受け入れていきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、市南西部の商店や住宅街に位置し、近隣には同法人運営の医療機関や訪問看護ステーション、介護老人保健施設等があり、医療面等での連携が図られ、入居者や家族からの安心に繋がっている。自然光が差し込むホーム内は、温かみのある和の雰囲気を活かしながら、家庭的な雰囲気づくりに取り組んでおり、居室においても各々が使い慣れた馴染みの品々の持込みがあり、居心地良く過ごせるよう配慮している。職員は基本理念や行動指針に添った、入居者が生きがいを持って安心して暮らせる様、利用者本位のゆったりとした支援に努めている他、地域住民との交流にも積極的に取り組んでいる。また、入居者一人ひとりの生活歴や趣味趣向等の情報を把握し、職員間で共有しながら試行錯誤を重ね、張り合いのある生活支援にも取り組んでいるホームである。

oiteha

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症高齢者が生きがいを持って生活できるように 安心で安全なホッとできる施設を目指します」の理念をホーム内に掲示し、理念に即した生活が送れるように勤めている。	利用者本位のサービス提供が理念に掲げられ、「ゆったり・楽しく・安心して」の行動指針と共に職員は理念を共有しており、日々の入居者支援において理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭り等の行事に積極的に参加したり、近隣の幼稚園児の訪問発表会等の受け入れ、高校生の訪問や生け花のボランティアも受け入れている。床屋は近所の床屋を利用し、地域住民との交流に努めている。	入居者の様々な事情もあり、自治会には加入していないが、自治会長とは顔見知りであることから、地域行事には積極的に参加している。近隣の商店等を利用したり、ボランティアの受入れを行う等、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期会議内で地域の行事参加後の報告及び意見交換は行っているものの、現在のところ地域に対しての働きかけは積極的に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、話し合いの場を設け、入居者の現状や事業、行事報告を行うことができている。また、市の職員や民生委員の意見などを参考にサービス向上に活かしている。	運営推進会議は入居者、家族、入居者知人、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加により2か月に1回開催している。会議ではホーム側から活動内容やヒヤリハットの報告等が行われると共に、参加者からも気兼ねない意見や提案が出される等、会議を入居者支援の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の担当者へ入居者状況を送付している他、入退院や入退所時にも随時報告をしている。外出予定を組む際に、市へ相談し行事等の情報を提供してもらっている。地域包括課からはGH対象のケースがあった場合に問い合わせをもらっており、対応が可能であるか検討している。	市には毎月、認定や更新手続き等での訪問の他に、市担当職員も気軽にホームに立ち寄ってくれる等、相談や情報交換をととして市担当職員にホームの現状を把握してもらい、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、日中は玄関の施錠もしていない。また、マニュアルを常備し職員の勉強会も実施している。	職員は身体拘束に該当する行為を理解しており、入居者の帰宅や外出願望には職員が見守りや声かけ、時には事業所周辺を散歩する等、入居者に寄り添いながら、身体拘束の無い支援に努めている。日中、玄関への施錠は行っていない。	

グループホーム尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含め、虐待につながる行為が発生しないよう常に管理者は目配りしている。また、日頃から言葉遣いやケアの中でも個々の尊厳が保てるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度についての研修に参加しており、個々の必要性について検討し、必要な入居者にはそれらを活用できるよう情報把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書や運営方針を説明し、入居者や家族に理解し納得して頂いた後、契約を結ぶようにしている。また、契約時にはホーム側の意向、入居者や家族の要望も聞き入れ、お互いに理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族が苦情や要望を表出しやすいよう対応窓口を設置すると共に、ホーム内にご意見箱を設置し、無記名でも意見や要望を表出しやすい環境作りに努めている。また、苦情や要望は、全職員で共有し対応の徹底を図っている。	入居者には日々の支援や運営推進会議時等に意見や要望等の把握に努めており、家族からも来所時等に確認をしており、意見や要望等を表しやすい環境作りに取り組んでいる。要望等が出された場合には、早急に内容を確認し、協議すると共に職員会議にて全職員に周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では、業務の見直し等を行っており、全職員が自由に意見を述べられる環境を作っている。また、管理者は、現場に入り、他職員と同様の業務をこなす事で、実情の把握に努めている。	職員は管理者に日々の業務や職員会議等で意見や提案を表せる環境が作られている。出された意見等は、会議で検討し、職員間での情報の共有と運営に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	きちんと休養が取れるような勤務の作成に心がけている他、必要に応じて有休休暇を使いリフレッシュを図るようにしている。また、職員の今後の資格取得希望や、提案に対し柔軟に受け入れができるよう努めている。今後は人事考課制度の導入を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて、内部研修の他、外部研修に参加する機会を設けている。また、経験の長い職員が相談相手になり、助言やアドバイスをを行いレベルアップを図っている。		

グループホーム尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内にショートステイ、デイサービスがあり、ボランティア来所持には声をかけてもらい、相互訪問している他、合同で運動会を開催して交流を図ったり、県外への遠足もやっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にはなるべくご本人様に直接会うようにしている。その際、困っている事や不安などをご本人様からお話していただけるように努めている。その他、希望があれば面会等もしていただき不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との面談時にはゆったりとした空間であるリビングや掘りごたつの場所にてお話を伺い普段の生活状況をさりげなく伝えることで家庭的な雰囲気であることを実感して頂き、ご家族様が現在抱えている不安が軽減できる様に話し合いを勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際にはホームの機能や対象者について説明するのはもちろん、ご本人の状態やご家族の介護力に応じて、施設サービスや在宅サービス、インフォーマルなサービスについても紹介し、本人や御家族が選択できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の生活ペースを尊重しながら、本人を介護される一方の立場におかず、個々の有する能力に応じ、料理や掃除、洗濯物たたみ等を協力して頂く事で、互いに協力し支え合って生活する環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、良い事のみではなく、できなくなってきた事なども含めて、ご本人の状態や生活の様子を報告している。また、毎月初めに各担当職員が生活状況報告書を作成し送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望がない限り、面会者の制限もなく友人や近隣の方が気軽に訪問できるよう配慮している。また、ご本人の要望に応じ、馴染みのある場所に外出する機会を作っており、自宅への訪問もやっている。。	入居者の要望に応じて、自宅への帰宅を行っており、その際には家族の協力も得ながら、友人や知人を招いている。また、日々の散歩コースも馴染みの場所である、地域の弁天様へのお参りを行う等、本人の希望等を確認しながら馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。	

グループホーム尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に食べて過ごし、皆で会話する時間を多く設けている。個別性に合わせて話をしたり、他の入居者が世話役になるなどの役割もあり、その人の居場所ができるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者やご家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。近隣の施設への入所の場合には、相互に訪問し交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、暮らしの希望や意向を聞き取り、職員間で共有できるように努めている。訴えが困難な場合は、生活歴や日々の行動から本人本位に検討するように努めている。	職員は入居者との馴染みの関係から一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでおり、周囲の目が気になり、中々本音を言い出せない入居者もいることから、入居者と職員が1対1となり本音を表し易い環境作りに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報シートを作成し、本人や家族はもちろん、介護支援専門員等からも情報収集を行い把握に努めている。その他にも、面会に来られた友人や親戚等からも、生活歴や趣味等を伺うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日のスケジュールについては細かく定めず、本人の希望等を受け入れるようにしている。その1つ1つを受け入れることにより能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、各入居者の課題とケアのあり方について話し合っている。また、毎月本人と面接する他、3ヶ月に1回モニタリングを実施したり、最低でも半年に1回、家族も参加の担当者会議を実施し介護計画の見直しを行っている。	介護計画は本人及び家族の意向を確認し、担当職員を中心としながら課題等を見出して、支援方針や達成目標等を作成している。3ヶ月毎のモニタリングや概ね半年毎に家族も交えた担当者会議を開催して、本人の状態に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を通して日常の変化や生活の情報を共有している。 毎月のスタッフ会議で話し合いを行い、対応を検討している。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎、行きたい場所への外出等、入居者のニーズに合わせ柔軟に対応している。誕生日には、本人の行きたい場所、やりたい事、食べたい物を伺い、個別で1日をかけ、できる限り希望に沿えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティア、通い慣れた床屋や商店街など、地域の人や場の力を借り、ご本人が楽しみを持って生活できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する、かかりつけ医を受診できるように支援している。 また、特に希望がなければ、協力医療機関について説明し、日々の受診や緊急時等に適切な医療を受けられるように配慮している。	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、母体法人でもある協力医療機関が隣接していることから、入居に伴いかかりつけ医を変更する場合も多い。本人の健康状態や受診結果、服薬類も家族と共に情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週1回訪問し健康管理、健康相談など気軽に対応してくれている。また、必要に応じて電話相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、本人との面会の他、主治医や病棟看護師などと情報交換（現状把握）を行い、必要に応じて退院後の環境整備を行い、スムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化や終末期に向けた方針の確認を行う他、本人の状態悪化や、悪化が見込まれる際には、その都度ご本人、ご家族と話し合い、多方面から今後の方針を検討している。また、必要に応じて同グループ内にある介護老人福祉施設や他施設への紹介も行っている。	入居の際に本人や家族に重度化や終末期の意向について確認を行っており、希望によっては重度化してもできるかぎりホームでの支援に取り組んでいる。医療行為等が増えてきた場合には、主治医等とも相談のうえで医療機関への入院や老健等に移る場合が多い状況にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常備しており、職員会議でも取り上げている。また、緊急時の連絡一覧表により、慌てずに対応できるように努めている。管理者は上級救命講習を受講し、その他の職員も普通救命講習を受講している。		

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応マニュアルの他、新入社員用・従業員用の防災の手引を作成している。また、消防計画を作成し年2回、避難訓練を実施している。火災通報設備を完備しており、ボタン1つで119番通報できるようになっている。	消防署員の立会いの下での消防避難訓練を年2回実施していると共に災害時のマニュアルや手引き等を用いた勉強会を実施し、緊急時の対応についての確認に努めている。スプリンクラーについては設置申請を行っている。	定期的な訓練の実施や緊急通報システム等を完備しているが、職員が少なくなる夜間時等には職員だけの避難誘導は困難であると思われることから、今後も災害時における地域との協力体制の構築に取り組んで行くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、その方の立場に立ち、尊重し、傷をつけないよう言葉に配慮している。個人情報に関する記録等は、外部へ持ち出しを禁じ、保管場所の施錠、外部への情報漏洩防止に取り組んでいる。接遇やプライバシー等の研修を実施し徹底を図っている。	入居者一人ひとりの人格や人権を尊重した穏やかな支援に取り組んでいる。入居者の呼び名は苗字や名前に「さん」付けで呼んでいるが、本人や家族の要望により臨機応変に対応している。また、ホームでは職員へ定期的に接遇や個人情報管理に関する研修を実施しており、支援姿勢の向上や個人情報漏洩防止にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	パン食時には、ジャムの種類やトーストの有無等、本人に決めて頂いている他、入浴前には、できるだけ本人に衣類を準備して頂いている。また、外食時にも好きな物を選んで頂いたり、会話の中からも思いを汲み取る言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮した上で、個々の性格やペースを考慮しながら見守り・支援するように努めている。また、日々の生活が単調にならないように、外食や外出、ドライブ等を行い、少しでも変化のある生活ができるようにしている。また、今年から遠足を実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望があれば、随時散髪に出かけている。また、基本的にはその日に着る衣類等の選択は本人に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みの把握に努め、味付けや献立を工夫している。職員は入居者と一緒に同じ物を食している。また、個々の能力に応じて料理や後片付け、テーブル拭き等を分担して行っている。	食材は宅配業者に委託し、調理はホームで職員が行っている。入居者は職員と共にできる範囲で食事の準備や片付けを行っており、食事は入居者と職員と一緒に会話を楽しみながら摂るようしており、家庭的な雰囲気作りにも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を随時チェックしている。また、極端に摂取量に偏りが見られたり、栄養バランスが十分に確保できていない場合は、主治医に相談し、調理方法や加療について相談、助言を頂いている。		

グループホーム尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施している。自力では困難な場合は段階に応じた介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握した上で、一人一人に合わせたトイレの声かけ、誘導を行っている。また、尿・便意がわからず失禁がみられる場合でも、必ず便座に座る習慣を作り、出来る限りトイレで排泄する支援に努めている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、さり気ない声かけや誘導によりトイレでの自立した排泄支援に努めている。パットやオムツ等を使用している場合でも交換のタイミング等を見計らいながら、出来るだけトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で個々の排泄パターンを把握し、水分や乳製品の摂取により、薬に頼らない工夫をしている。また、体操や家事などの生活リハビリにより体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制をとっている。季節によって薔薇風呂や柚子風呂などを実施し、入浴が楽しめるようにしている。また、入浴を拒否される入居者には声かけの工夫や入浴したいタイミングを捉えて対応したり、清拭・足浴により清潔を保っている。	毎日でも入浴できる体制になっているが、1日置きの入浴が多い状況にある。入浴時間は昼食後から夕方にかけての時間帯で行い、入浴の順番や時間も本人の要望に応じた入浴が出来るよう支援に努めている。入浴が困難な場合には部屋や脱衣所で清拭や足浴等での支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調、生活状況に応じて休憩時間を設けている。1日のリズムを把握し、安心して生活が送れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬箱の中に最新の処方箋を保管しており、いつでも薬効や副作用が把握できるようにしている。また、配薬時にも確認できるよう、薬の袋に薬剤名、薬効について添付している。新しい薬が開始された場合には、症状の経過について記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存能力に合わせて、日常的に掃除や料理、洗濯物たたみ等、仕事や役割を見出している。誕生日には本人に行きたい場所や食べたい物等の希望を伺い、個別にて、できるだけ希望に沿った誕生日を過ごせるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は必ず外出・外食する機会を作っている。その他にも希望があれば、ドライブや散歩、買い物など臨機応変に対応している。また、遠方などで職員の対応が困難な場合は、ご家族に協力して頂き外出支援している。	日々の近隣への散歩や買い物の他に、入居者の希望等を確認しながら、毎月、季節に応じた外出先へのドライブや外食に出掛けている。また、家族の協力も得ながら、自宅への外泊や旅行等に出掛けている入居者もいる。	

グループホーム 尊徳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できない方が多く、金銭を持つことで入居者間のトラブルにつながる為、基本的には金庫で保管している。ただし、希望者には、ご家族の同意の上、小銭程度を管理して頂き、買い物の際にはご自身で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話をしたいとの訴えがあった場合には、時間をみて付き添いのもとで電話していただいている。外部からの電話も本人の状況で取り次いでいる。手紙については、改めて書くことはないものの、年末に本人の直筆で年賀状を書いて頂き、ご家族に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング等からは季節感のある小庭や花が見えるよう工夫し、ホーム内には明るい日差しが入るよう天窗を2ヶ所設けている。また、茶の間には畳、掘りごたつがあり、家庭的な雰囲気となっている。廊下には行事等の写真を掲示し、各々が入居者同士やご家族と思い出話ができるよう配慮している。	共用空間は清掃が行き届き、温度や湿度、換気等も適切に管理されている。窓からは穏やかな自然光が差し込み、掘り炬燵のある和室やリビング等は家庭的で居心地良い空間が作られており、入居者が思い思いに寛ぐ姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースでは、洗濯物たたみをしながら談話されたり、昼寝をされたりと個々が思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具類を自由に持ち込んで頂き、各々が馴染みの物に囲まれ、居心地の良い空間で過ごせるよう支援している。	各居室は自分の家と捉え、入居前の環境と違和感がないように、本人及び家族には使い慣れた家具や馴染みの品々の持参を促しており、家具類や電化製品、仏壇や家族の写真等が持込まれ、个性的で居心地の良さそうな居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	門から玄関までは緩やかなスロープとなっている。室内は玄関を含めて段差を解消してあり全てフラットな状態である。玄関先には椅子を設置し、靴の履き替えや上着の着脱が安全に行えるようになっている。また、ドアは全て引き戸となっており、少しの力で開けられるよう配慮している。		